

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年12月11日（木）16：00～16：10

場所：合同庁舎8号館

【冒頭発言】

現地時間12月10日の首席交渉官会合については、いつもと同様に朝9時から夕方6時ぐらいまで行われた。

最初は、原産地規則が議題とされた。原産地規則は、何度もこの場でご説明しているが、基本的なルールを定めるテキストの部分と個別品目ごとに原産地のルールを決めるPSRといわれる部分の二本立てである。北京会合の報告書では、「相当数の品目について実質的に進展させた」という書き方になっている。PSRに関しては個別品目ごとのルール作りについて作業部会で粛々と作業されているが、10日の首席交渉官会合では、テキストの残っている課題について議論がなされた。内閣官房の資料でも「基準や証明制度などについて定める」と書いてあるが、まさにそういった証明制度などについて詰めの議論がなされている。作業計画に従って、ワシントン会合が始まる前に、最終妥協案のようなものが示され、それを基に議論されている。一部意見を言う国もあるようだが、各国が持ち帰っておそらくテキストについてはそう遠くないうちに収束するのではないかという状況にまできている。ただ、PSRの個別の品目については、まだ品目が残っており、物品の関税交渉次第ということもあるので、合わせて作業部会の方で議論されることと思われる。

次にリーガル（法的・制度的事項）だが、これはいくつかのチャプターに分かれているところ、昨日ご説明したのは紛争処理であり、10日に行ったのはリーガルのうちの腐敗防止である。北京会合の報告書において「透明性・腐敗防止」ということで整理されているが、これについては「作業中」となっていたと思う。腐敗防止の取組みを強化しようということで、各国がコミットするという。我が国にとって問題はないが、あまり厳しく書かれないという国もあったりして、そういう国々ともめていたのだが、ここもだいぶ収斂してきて、気になる部分を注釈に書き込むことで何とか収めようといった感じになってきている。今回のワシントン会合全体を通じてそうなのだが、最後に閣僚にまで上げなければならない論点はともかくとして、それ以外のものは事務作業を残すのみといった感じで終わらせようといった雰囲気はかなり共有されていると思う。

10日の最後は物品貿易（テキスト）の議論がなされた。個別の関税交渉ではなくて、テキストの議論である。テキストについていくつか論点が残っているが、閣僚会合で議題になるような話と事務レベルで決着すべき話とがあり、事務レベルで決着すべき話は、行政手続に関するかなりテクニカルな議論・論点である。これについては、いろいろと意見を言っていた国が矛を収める方向になっていて、いくつかの論点については、関税交渉とリンクするというところもあるので、それを見ながらということになっている。シドニーでの閣僚会合で議論された論点もあり、それが何かについて積極的に話すことは控えなければならないが、アメリカの専門情報誌がシドニー会合の後に書いた記事によると、シドニーの閣僚会合において物品貿

易で議論された中身として、輸出補助金を禁止するかどうかということがあり、閣僚会議でも結論は出なかったということである。いずれにしても、今回、閣僚レベルで議論すべき論点が首席交渉官会合で議論されたが、これもテキストの論点というのは関税交渉ともリンクするというので、最終的にはそれを見ながらというのが結論である。

それから、鶴岡首席交渉官は、この日に1か国とバイの協議を行った。おそらくバイの協議はこれで終わりと思われる。

10日の分野別の作業部会については、国有企業、原産地規則、繊維、リーガル、これらは前から議論されていたが、これらに加え、環境、物品貿易（テキスト）が開催されている。今回のワシントンで予定されている平場のワーキンググループはこれが全てである。アメリカの専門誌は5グループと書いているが、数え方が難しいのだが、繊維を入れれば6ということになると思う。

それから、物品の関税のバイの交渉については、昨日お話ししたとおりの状況である。今回、先方の都合でできなかった国もあったが、その国とは近いうちにやりましょうという話ができたとのことである。

10日については以上であり、現地時間11日の首席交渉官会合については午前に環境、午後に国有企業という予定である。

【質疑応答】

（記者）大江首席交渉官代理とアメリカとのバイの協議の結果はどうだったか。

（審議官）内容については控えさせていただく。

（記者）大江首席交渉官代理はカトラー米国次席通商代表代行と協議を行ったと思うが、ヴェッター首席農業交渉官とも一緒に協議したのか、それとも別々か。

（審議官）別々である。

（記者）各国のバイでの協議がまとまったら、全体の調整をすることになると思うが、それはまだ始まっていないのか。

（審議官）やり方の問題ではないか。たとえば、日米の状況は他の国にもある程度の話をしてそれを踏まえて交渉をしている。国によって対応の仕方はいろいろだが、我が国は誠実に対応しているつもりである。

（記者）最終的には譲許表は1つにまとめるということか。

（審議官）今のところシングルタリフスケジュールとは言っているが、シングルというのが完全にコモンなのかということについては結論が出ていない。

（記者）最終的にテキストの論点というのは関税交渉とリンクするというので、それを見ながらということだが、首席間で関税交渉の議論はされたのか。

（審議官）10日までの間では、まだである。

（以上）